校長室だより

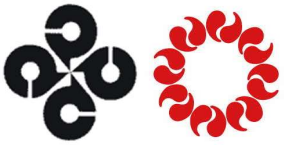
三刀屋高等学校・掛合分校

第26号

令和３年１０月２０日

絆

○ 島根県×埼玉県高校生交流事業 → 島根県、埼玉県の県章



島根県の県章は、「中心から放射線状にのびる4つの円形が雲形を構成して、島根県の調和のある発展と躍進を象徴し、円形は、『マ』を4つ組み合わせたもので『シマ』と読まれ、県民の団結を表しています。昭和43年11月8日明治百年記念として制定されました。」と島根県のホームページ(引用:島根県/島根県のシンボル)で説明しています。

埼玉県は、「まが玉 16 個を円形にならべたもの。まが玉は、古代人が装飾品などとして大切にしたもの。埼玉県名の由来である「幸魂(さきみたま)」の『魂』は、『玉』の意味でもあり、まが玉は、埼玉県にゆかりの深いものとなっている。また、まが玉を円形に配置したデザインは、『太陽』『発展』『情熱』『力強さ』を表している。県旗は県章を白地に赤く染め抜いたもので、昭和 39 年 9 月 1 日に制定された。」と埼玉県のホームページ(引用:埼玉県／埼玉県章)で説明しています。

勾玉(まがたま)は、天皇が皇位継承する際に大きな意味を持つ三種の神器の一つ「八尺瓊勾玉(やさかにのまがたま)」としても有名で、島根県、特に出雲地方においては歴史上のシンボル的なものの一つであり、玉造温泉の地名の由来としても有名です。島根県の県章も見方によっては勾玉に見えなくはありません。

先日オンライン方式で始まった「島根県×埼玉県高校生交流事業」は、島根県教育委員会が埼玉県教育委員会と、平成30年に高等学校教育に関する連携協力協定を結んでいることから実現し、三刀屋高校他県内4校が参加しました。

ちなみに、令和2年1月には埼玉県立総合教育センターと島根県教育センターとの間でも、「教職員研修における連携に関する覚書」が結ばれています。この覚書を受け、教育センター相互で研修をオンライン視聴するなど様々な連携にむけて動き出す予定でした。折しも調印直後にコロナウイルス感染症が出現、拡大していき、オンラインが授業でも必要な時代が一気にやってきました。調印時の埼玉県側の実務担当であったのが、現在の埼玉白楊高校の校長である黒田校長先生で、島根県側の実務担当が私でした。黒田校長先生とは、平成23年に埼玉であった全国規模の研究大会に参加した時や平成26年に行った埼玉県立総合教育センター視察の時にも関わりがあり、話がスムーズに心やすくできたのはとても大きかったと思っています。今回は、そのつながりから黒田校長先生のお声かけもあって、三刀屋高校もこの交流に参加することになりました。こうした人との繋がりやご縁の大切さをあらためて感じているところです。実は、校長室に飾っている胡蝶蘭と県名と名前の入った扇子は、黒田校長先生からお祝いとして贈っていただいたものです。

ちなみに、今回交流した児玉白楊高校は、生物資源科、環境デザイン科、機械科、電子機械科の4科を有する専門学科の高校です。児玉高校は、室町中期に築城された城跡にあり、2001 年に創立100周年を迎えた学校で、普通科の普通コースと体育コースがある学校です。オリンピック女子柔道で金メダルに輝いた新井千鶴選手の母校です。

研修旅行や部活動の遠征で県外に行くことは、今はほとんどありません。ですが、コロナ禍で、これまでに経験したことのない学校生活を送る高校生にとって、他県でも、首都圏にある埼玉県においても、前向きに頑張っている高校生がいることを互いに知ることは大きな意味があり、学びも大いにあると思います。その一つが視野の拡大、視点の多様化です。今回研修旅行で本校 2 年生が行った島根県立大での高須准教授の講演で、「身近な地域の問題を人は過小評価しがちである。しかし、世界は数え切れない地域で構成されている。問題や事象をみる時に、解像度や距離(問題のとらえ方や見方)を固定化せず、広い視野で多角的な視点をもって評価することが大事」と話されていました。しまね留学の目的の一つと同じで、他県の高校生と交流し、多様な考えに触れることは視野を広げることにもつながります。研修旅行では、石見銀山も訪れました。地域の歴史は、これまで「郷土史」としてお国自慢的に語られることがありました。今は、地域の歴史の評価を日本史全体の中で考察していく「地域史」が主流です。石見銀山がなぜ世界遺産になったのか、その意義が何かを考えることが契機となって、物事を広い視野から捉え直したり探究したりすることにつながればと思います。